



伊豆名所図繪

伊豆全島名所図繪

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

現在の伊豆箱根鉄道は、小田原—大雄山駅間を結ぶ大雄山線（九・六km）と三島—修善寺駅間を結ぶ駿豆線（十九・八km）および十国峠の十国鋼索線を営業している。

今回紹介の初三郎鳥瞰図は、大正期の画風であり、大正十二年の作品だ。大雄山線は、大雄山鉄道が大正十四年に開業した路線なので、描写はない（昭和五年刊「大雄山名所図繪」には表記）。駿豆線は、駿豆鉄道が地方民鉄として営業している図柄となっている。

鉄道史に言及すると、駿豆鉄道は大正五年に設立。豆相鉄道が開業した三島（現・JR御殿場線下土狩駅）—大仁駅間の鉄道事業の営業権と、駿豆電気鉄道が開業した六反田（現・三島小浜路駅）—沼津駅前間の電気鉄道の譲渡を受け、翌六年に発足した。大正十三年には、大仁—修善寺駅間が延伸開業し、同時に三島—修善寺駅全線が電化している。

藤本一美
 首都大学東京非常勤講師。日本国際地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。
 近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『伊豆名所図絵 [伊豆全島名所図絵]』

(大正12(1923)年5月30日)

駿豆鉄道株式会社 発行/東京市京橋区の大正名所図絵社 印刷

伊豆箱根鉄道株式会社
Izuhakone Railway Co., LTD

創業：駿豆鉄道 大正5年12月7日
名称変更：昭和32年6月1日
本社：静岡県三島市大場300番地

伊豆箱根鉄道株式会社 路線図

伊豆と箱根エリアの観光開発と地域輸送を担う

三島からいで湯の修善寺に至る駿豆線と、大雄山最乗寺の参拝客輸送を目的に開業した小田原を起点に大雄山に至る大雄山線。箱根山を挟んで走る二つの路線と、富士山と「十国」の絶景で知られる十国鋼索線を有する伊豆箱根鉄道は、伊豆・箱根エリアの観光開発と地域輸送を担っている。現在は、運輸事業や観光事業、旅行業などグループ5社で幅広く事業を展開。地域に根ざした企業として「でかける人を、ほほえむ人へ」を理念に、安全で快適、良質なサービスを提供している。



その後、昭和九年に丹那トンネルが開通し、国鉄東海道本線の三島駅が開業すると駿豆鉄道も起点駅を延伸して現在の三島駅に変更しているので注意が必要だ。

さて、初三郎の大胆不敵な構図をみてみよう。

伊豆の島々上空からの視点で、いで湯の湯煙、温泉群が目立つ伊豆半島の全体像を画面いっぱい描き、紅葉の天城山系も表現している。中央奥には駿河湾越しの秀麗な富士山を配置。箱根以東の東端に東京方面、西端に四国・九州はもちろんのこと、朝鮮釜山まで「遊び心」で入れているのは嬉しい限りである。

駿豆鉄道がスポンサーだけに、鉄道路線は太い赤線で縦貫させ、立体的な電車が走行。沿線の三島神社や葦山城跡、江川邸跡(反射炉も)、日金山、源頼朝配流の地・蛭ヶ小島などの史蹟も描出している。

終点の修善寺駅からは、自動車の接続の利便さを巧みな筆致で表し、後背地としての修善寺・湯ヶ島・下賀茂などの温泉街や下田港、松崎、土肥などへ、誘うかのようだ。

なお、同年に初三郎は「駿豆鉄道沿線名所図絵」も描画しているようだが、初三郎作品目録(昭和九年)にも記載はなく、未見である。